

一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成二十九年十一月分）

選者 高山俳壇 高野悠子

特選 天 鍵盤に指の小踊り暖炉燃ゆ

群馬県 鈴木百合子

平和で幸福に満ちた家庭の一コマが浮かぶ。上五と中七の表現のうまさ、季語も抜群です。

特選 地 泰然として螻螂の枯れるたり

群馬県 篠原庄治

物事に動じない螻螂を良く観察したまさに写生句ですが、作者は単に螻螂のことを説明している訳ではない。

特選 人 豊穡の海原走るローカル線

愛知県 平野辰美

自然体でシンプル、リズム感もあり牧歌的な情景描写がすばらしい。

入選 蔦紅葉無神論者をゆさぶりぬ

群馬県 加藤幹生

入選 南北の雲の行きかふ秋浅間

群馬県 滝沢照香

入選 離れ家の囲炉裏に一茶居さうなり

山梨県 青柳時子

入選 冴ゆる夜や時計の音に寝そびれて

群馬県 竹渕千恵子

入選 奥山に独り分け入る茸狩り

群馬県 山口岩美

入選 訪ね来て一茶の庵の紅葉かな

愛知県 永井まさみ

入選 ひめりんごおふろにいらてうかんでる

高山村 いくまあんな